



小テーマ展示「シリーズ ここまでわかった考古学」

「弥生人現れる 一大地は実り人は祈る」  
展示風景と考古学セミナー  
(於：大阪府立弥生文化博物館)

「出土木器が語る考古学」  
展示風景とシンポジウム  
(於：大阪府立近つ飛鳥博物館)

「禁野火薬庫の調査」  
展示風景と調査成果報告会  
(於：日本民家集落博物館)

## もくじ

- P. 2
  - 郷土の文化財を見学する会
  - 文化財講座
  - 小テーマ展示
- P. 3
  - スポット展示
  - 第2回 歴史体験隊
  - 民家集落博物館 むかしの道具2 漁具
  - 民家集落博物館 むかしの暮らし
  - 重要調査に関するシンポジウム
- P. 4
  - 都出評議員に「文化の日表彰」
  - 共同研究
  - 発掘体験
  - 全埋協 中国研修

- P. 5
  - 第17回考古学国際交流研究会
  - 第17回考古学国際交流研究会を実施して
  - 職員の異動
- P. 6
  - 現地公開・現地説明会
- P. 7
  - トピックス
    - \* 讃良郡条里遺跡出土  
近畿最古の弥生土器
    - \* 堺環濠都市遺跡出土  
ヨーロッパ製品
- P. 8
  - 弥生文化博物館 春の展示ご案内
  - 近つ飛鳥博物館 春の展示ご案内
  - 日本民家集落博物館 催しご案内 (4月~7月)

## 郷土の文化財を見学する会

第7回例会（11月12日）では、法隆寺周辺を詳しく歩いた。第8回例会（12月10日）は三重県松阪市へのバスツアーで、松阪城跡や松阪市文化財センター、宝塚古墳等を見学した。第9回例会（1月21日）の和泉市では、弥生文化博物館にて開催されていた「発掘された日本列島2006」展、池上曾根遺跡および小栗街道を巡った。今年度最終となる第10回例会（2月11日）では寝屋川市を訪問。石宝殿古墳や寝屋古墳、高宮廃寺等を訪れた。



第7回見学会風景

## 文化財講座

文化財講座の後半戦は第5回10月29日の、宮島一彦同志社大学理工学研究所教授から始まった。先生は、自宅の望遠鏡で天体観察もなされ、壁画古墳の天井部に描かれた天文図について詳しく説明された。中国の影響が強いことや被葬者に迫る試みを話された。第6回11月26日の町田 章前奈良文化財研究所所長は中国の墓制の中でも唐代以前の壁画古墳を数多く取り上げて示され、その特徴を説明された。第7回12月17日、星山晋也早稲田大学文学部教授は、絵画の描き方から現代の漫画や中世の絵巻物にも通じる東アジア的な絵画の特徴を示され、高松塚古墳壁画の特徴と重ね合わせ、中国との関係も語られた。第8回1月28日、柳沢一男宮崎大学教授は、手術直後のお体であったが、九州の壁画古墳について多くの事例をパワーポイントで示され熱心に語られた。石障等に彫られた直弧文のモチーフは阿蘇の石工達が本来携えていたものが全国に広まったものである事を説明された。第9回2月18日、白石太一郎近つ飛鳥博物館長は、石棺の天井部分の型式や刀装具等の遺物及び地域氏族のあり方等から被葬者を示された。第10回3月18日、水野正好大阪府文化財センター理事長は百濟からの仏教伝来や物部氏、蘇我氏の関係について説明され、鳥取県淀江町上淀廃寺の発掘で発見された壁画についてその顛末も熱く語られた。最終回で、皆勤15名の方々に修了証をお渡しした。

## 小テーマ展示

センターの調査研究の最新成果を紹介する小テーマ展示「シリーズここまでわかった考古学」。4回目となる今回は、講演会等に多くの方が参加され、大変盛況であった。

また、同展示の開催にあたり、各関係機関には多大なるご協力を賜った。厚くお礼申し上げる。

### ◆ 池島・福万寺遺跡発掘調査25周年記念

弥生人現れる一大地は実り 人は祈るー

2007年2月10日（土）～3月25日（日）

大阪府立弥生文化博物館 特別展示室

入館者総数 4,287名

### 【考古学セミナー】

第1回 2月24日（土） 参加者数 210名

\*米づくりが始まった頃の池島・福万寺遺跡\*

水野正好（(財)大阪府文化財センター理事長）

廣瀬時習（(財)大阪府文化財センター）

鬼頭 彰（(財)大阪府文化財センター）

第2回 3月11日（日） 参加者数 320名

\*ある日、縄文人は弥生人になったのか？\*

若林邦彦（同志社大学歴史資料館）

豆谷和之（田原本町教育委員会文化財保存課）

ミニシンポジウム

コーディネーター

金関 恕（大阪府立弥生文化博物館 館長）

### ◆ 出土木器が語る考古学 弥生時代・古墳時代の諸様相

2007年3月3日（土）～4月8日（日）

大阪府立近つ飛鳥博物館 特別展示室

入館者総数 6,482名

（3月25日現在）

【シンポジウム】3月4日（日） 参加者数 180名

\*木器研究最前線！出土木器が語る考古学\*

講師 上原真人（京都大学）

山口讓治（福岡市教育委員会）

樋上 昇（(財)愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター）

飯塚武司（(財)東京都生涯学習文化財団

東京都埋蔵文化財センター）

コーディネーター

山口昌久（首都大学東京）

黒須亜希子（(財)大阪府文化財センター）

### ◆ 禁野火薬庫の調査

2007年3月8日（木）～3月21日（水・祝）

日本民家集落博物館内 カルチュアはっとり

入館者総数 1,725名

【調査成果報告会】3月10日（土）参加者数 50名

駒井正明（(財)大阪府文化財センター）

酒井一光（大阪歴史博物館）

## スポット展示

大阪府立弥生文化博物館において2つのスポット展示を開催した。

◆「讃良郡条里で遺跡で見つかった近畿最古の弥生土器」  
(2007年1月25日～2月4日)

◆「池内遺跡で見つかった近畿最古の水田と環濠集落」  
(同1月31日～2月4日)

「近畿最古」がキーワードとなる今回の展示では、土器の出土状況写真や解説パネルに加え、配布資料が用意された。この展示を目的に来館される方が多く、大変好評であった。



展示風景

## 第2回 歴史体験隊

今年度も歴史体験隊を11月から全4回実施しました。参加者は小学生27人。保護者の方も何人か参加されました。

1回目は、縄文ポシェット作り。2回目は、はにわ作り。3回目は、はにわ焼き。4回目は、ペーパークラフト。3回目は、ユースホステルでの開催でしたが、他は、日本民家集落博物館内の民家で行いました。天気のよい日は外で粘土を捏ねたり、お弁当を食べたり、自然に囲まれた中でのもじりと作業しました。

こどもたちのお互いに助け合う姿を見て、逆にこどもたちから学ぶことが多かったように思います。(青柳佳奈)



一生懸命粘土をこねる様子

## 民家集落博物館 むかしの道具2 漁具

昨年の「むかしの道具(発掘民具)1. 農具」に引き続き、むかしの道具(発掘民具)シリーズ2回目として、漁具について取り上げました。

展示期間は、12月14日(木)～23日(土・祝日)。釣り針や蛸壺などの考古学資料や民具資料を約50点、日本民家集落博物館内のカルチュアはっとりで展示しました。12月16日(土)に、「大昔の漁業」というタイトルで福岡澄男理事による講演会が行われ、発掘されたサケ漁の漁具について貴重なお話がありました。(青柳)

## 民家集落博物館 むかしの暮らし

小学生向け特別展示として「昔の暮らし」を日本民家集落博物館内のカルチュアはっとりにて開催しました。期間は、1月16日(火)～2月28日(水)。昔の暮らしの道具に関する民具資料や大阪城跡から出土した考古学資料を約170点展示しました。

また、期間中、当館職員とボランティアの人達で、学校団体向けに「昔の暮らしについておじいちゃん、おばあちゃんの話をお聞かせ」を行いました。この企画には、小学校14校の申し込みがあり、大変盛況でした。(青柳)

## 重要調査に関する シンポジウム

2006年12月2日、大阪歴史博物館においてシンポジウム「古墳時代に生きた渡来人の軌跡—長原遺跡・葦屋北遺跡・上私部遺跡を中心に—」を開催した。受付開始前から行列ができ、講堂およびモニター室が満席となるなど、予想を上回る反響があった。今回、関連展示を同博物館8階にておこなった。有料ゾーンであるにも関わらず、シンポジウム当日の展示解説には多くの人が集まった。アンケートにおいても、今後取り上げてほしい遺跡や時代に「古墳時代」を挙げる方が多く、同時代についての関心の高さが窺えた。



シンポジウム風景



## 都出評議員に「文化の日表彰」

当センター評議員の都出比呂志氏が、多年にわたる大阪府文化財の保護、普及および振興に関する貢献により、2006年度の大阪府教育委員会表彰「文化の日の表彰」を受けられた。表彰式は11月6日に大阪市内のホテルで行われた。

## 共同研究

5年目を迎えた3博物館と当センターとの2006年度の共同研究は、それぞれの博物館において次のテーマで実施され、下記の外部メンバーの各氏にも加わっていただき、一般向け発表会も行われ、多数の参加者を得て終わった。

### ◎弥生文化博物館「比較・検証 南九州弥生文化の実像」

**外部メンバー** 宮崎県都城市教育委員会 栗畑光博、  
鹿儿岛県歴史資料センター黎明館 東 和幸  
\*一般向け発表会 2007年2月4日(日)

### ◎近つ飛鳥博物館「摂河泉古代寺院の総合的研究」

**外部メンバー** 近畿大学 大脇 潔、藤井寺市教育委員会  
上田睦、枚方市教育委員会 竹原伸仁、京都大学 吉川信司、  
堺市教育委員会 近藤康司  
\*一般向け発表会 2007年2月10日(土)

### ◎日本民家集落博物館「住居に関する総合的研究(5)」

**外部メンバー** 泉佐野市史編纂委員 松本芳郎、  
新潟県津南町歴史民俗資料館 桑原百合枝  
\*一般向け発表会 2007年3月17日(土)

## 発掘体験

### \* 2006年\*

中学2年生の職場体験学習は羽曳野市立峰塚中学校が南都調査事務所古市分室で11月1日(水)～2日(木)の2日間、松原市立松原第七中学校が池内遺跡で11月15日(水)、様々な屋外作業、屋内作業を体験しました。

12月8日(金)には、大阪府立大手前高校の生徒が池内遺跡で発掘体験をしました。総合選択学習で考古学を選択した1・2年生14名は午前中、一緒に学校で大学の先生の講義を受け、午後から発掘現場での実体験となりました。

### \* 2007年\*

発掘現場の午後からの現地公開に先立って、午前中に小学生を対象とした見学会がおこなわれました。私部南遺跡では、2月16日(金)に岩船小学校と交野小学校の5・6年生331名が発掘現場の見学に訪れ、技師の説明に耳をかたむけ、建物跡や出土遺物を興味深げに見ていました。また、2月21日(水)には堺環濠都市遺跡に少林寺小学校1～3年生70名が見学に来ました。担当技師は小学校低学年に遺跡や遺物の説明をするのに大変苦労をしていました。

## 全理協 中国研修

平成18年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会の中国研修が、12月5日から10日にかけて実施された。研修地は長江流域、杭州(浙江省)・南昌(江西省)・武漢(湖北省)といった地域である。新石器時代後期の良渚文化と商から戦国時代にかけての青銅器が二大テーマであった。

この研修には北海道・山形・千葉・大阪から10名が参加し、当センターからは南部調査事務所の岡本、交野分室の後藤、池島支所の塚本のほか、横山専務理事と前専務理事の鳴澤氏、大阪府教育委員会文化財保護課の玉井氏が参加した。

杭州近郊の良渚は文化の名称の由来となった遺跡の集中する場所であり、博物館で高度な技術で製作された大量の玉器と対面した。また、近年報告書が刊行された良渚文化を理解するために最も重要な瑶山・反山・莫角山の3遺跡を訪れることができた。

南昌からはバスの移動となり、湖北省の大冶では青銅器の原料の銅を採掘していた大規模な鉱山、銅緑山遺跡を見学した。現在も操業が続けられるこの場所ではなんと商、春秋戦国時代から合理的な技術により採掘が始まっていたことは驚きである。

大小65個の青銅製の鐘からなる巨大な編鐘が副葬される曾侯乙墓は日本でも非常に有名であるが、湖北省随州の現地に立てたことは感激であった。墓壙は信じられないくらい大きく深い木槨で構成され、15000点にも及ぶ副葬品と合わせて、当時の王侯の隔絶した権力がよく理解できた。

編鐘そのものには武漢市内の湖北省博物館で見ることができた。ここには戦国時代の楚墓に副葬された戦車群が土ごと剥ぎ取られた迫力のある展示もあった。

現在、中国では高速道路・空港・工業団地など大規模な開発が目白押しであり、これにともなう遺跡の緊急調査が激増しているそうである。訪れる都市それぞれの博物館も立派であり、新築・増築ラッシュであった。遺跡・遺物だけでなく、今の中国の持つエネルギーにも圧倒される思いであった。

お世話になった方々に感謝するとともに、今回の研修で受けた刺激を今後活かしていきたい。(塚本浩司)



湖北省博物館にて、胡雅麗氏とともに

## 第17回考古学国際交流研究会

2007年2月22日から3月1日の間、韓国から河炳巖(釜山市立博物館福泉博物館)、鄭鉉錫(蔚山文化財研究院)、朴根台(済州大学校博物館)、李昌熙(釜山大学校博物館)の4氏を招請して、以下の日程で第17回考古学国際交流研究会が行われた。

### 日 程

- 2月22日(木) 来阪(釜山→大阪)、歓迎会
- 2月23日(金) (財)大阪府文化財センター本部訪問、大阪府立泉北考古資料館、(財)大阪府文化財センター南部調査事務所視察
- 2月24日(土) 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 大阪府立近つ飛鳥博物館、大阪府立狭山池博物館視察
- 2月25日(日) 高槻市ハニワ工場公園、京都市考古資料館、京都大学総合博物館視察
- 2月26日(月) 私部南遺跡発掘調査現場、長原遺跡発掘調査現場、大阪歴史博物館視察
- 2月27日(火) 大阪府立弥生文化博物館、池上曾根史跡公園、堺環濠都市遺跡発掘調査現場、堺市博物館視察
- 2月28日(水) 発表・意見交換会(大阪府教育委員会文化財調査事務所、通訳:田中由理氏)
- 3月1日(木) 帰国(大阪→釜山)

この間、訪問先ではいろいろなお高配をいただいた。厚くお礼申し上げます。

発表会では鄭鉉錫氏「雲化里古墳群遺跡発掘概要」、朴根台氏「済州道和順里遺跡発掘概要」、李昌熙氏「勒島住居址の祭祀長」について発表があった。最近日本でも関心が高まっている内容に関するものであり、大変有意義であった。



韓国から来阪した4人の研究者  
(中央右から左に河炳巖・鄭鉉錫・朴根台・李昌熙氏)

## 第17回考古学国際交流研究会を実施して

本年2月22日から3月1日までの間、韓国から4人の考古学研究者をお招きして、標記の研究会を実施した。早いものでこの事業を始めて17年が経過した。この間、日韓の考古学研究は相互の結びつきをますます強くしている。当センターが実施してきた本事業をふりかえっても、韓国の研究者との大きなつながりの輪ができたし、それだけではなく、双方の発掘資料を直接比較検討する段階になってきた。もはや韓国における発掘調査成果や研究の現状を知らなければ、我々が日常的に行っている発掘調査や出土品の整理などの仕事や研究も、十分な成果をあげられないということである。こうした状況をみるにつけ、この事業を行う意義は大きい。

今回も7泊8日の間に、実際に発掘調査現場や出土品を見ながら、数々の意見交換が行われた。2月28日に行われた発表会の内容もそれぞれに興味深いものであった。なかでも朴根台氏の発表は、近年、我が国でも大きな関心が持たれ、多くの議論が行われている松菊里型住居に関わるものであり、また李昌熙氏の発表は、日本の研究者が注目している勒島遺跡の発掘調査成果に関するもので、大変有意義であった。

発表会終了後の送別会の席で、勒島遺跡で多量に出土しているト骨の素材について李昌熙氏にたずねてみたところ、鹿の肩胛骨が多数をしめ、猪が少量みとめられる。牛は使用されていないということであった。これは日本の弥生時代の遺跡から出土するト骨と同様である。また勒島遺跡からは須玖式土器など、日本の文物も出土していて、交流拠点であったことが知られる。この点も我が国の、原ノ辻・上東・青谷上寺地等、近年発掘調査された遺跡や当センターが調査した亀井遺跡などと共通して興味深い。(福岡澄男)



李昌熙氏の発表風景 隣は通訳の田中由理氏

## 職員の異動

### 退職者

- 1月31日付 田口宗義(総務部 総務課 経理係)  
2月5日付 山元 建(普及部 普及資料課 企画普及係)  
2月28日付 木村まり(専門調査員)

## 現地公開・現地説明会

2006年度、大阪府文化財センターでは現地公開・現地説明会を計12回開催し、のべ3847人も参加者があった。以下で、開催された順番に沿って概略を記す。

三宅西遺跡04-2では、弥生時代中期の竪穴住居などが検出された遺構面を対象として2006年6月6日に現地公開を行い、44名の参加者があった。池上曾根遺跡06-1は弥生時代中期の遺構面を対象として12月3日に現地説明会を行い、308名の参加者があった。津田遺跡03-1では弥生時代後期の竪穴住居や溝によって区画された鎌倉時代の掘立柱建物群を対象として12月12日に現地公開を行い、24名の参加者があった。玉櫛遺跡06-1では古墳時代中期～後期の遺構面を対象として12月18日に現地公開を行い、170名の参加者があった。

池内遺跡05-2では弥生時代前期の水田や環濠と考えられる2条の大溝などが検出された遺構面を対象として12月19日に現地公開を行い、76名の参加者があった。また、翌年の1月27日には同遺跡の現地説明会を行っており、735名の参加者があった。新聞報道等で「近畿最古級の水田」として大きく取り上げられたため、多数の人々が関心を集めたものと思われる。

私部南遺跡06-1では弥生時代前期末～中期初頭の集落跡と古墳時代後期の集落跡が検出された遺構面を対象として

2007年1月20日に現地説明会を行い、730名の参加者があった。

吹田操車場遺跡06-1では古墳時代の群集土坑や奈良時代の掘立柱建物が検出された遺構面を対象として1月25日に現地公開を行い120名の参加者があった。また、3月25日には同遺跡の現地説明会を行っており、130名の参加者があった。私部南遺跡06-2では古墳時代中期の竪穴建物が検出された遺構面を対象として2月16日に現地公開を行い、468名の参加者があった。

堺環濠都市遺跡06-1では江戸時代前期の遺構面を対象として2月21日に現地公開を行い、302名の参加者があった。また、堺環濠都市遺跡06-2では慶長20年(1615年)大阪夏の陣で焼き討ちされた土蔵などの建物群や近世の石室が検出された遺構面を対象として3月10日に現地説明会を行い、740名の参加者があった。同遺跡から出土したオランダ製ワインボトルや英国製の陶器は新聞やテレビで大きく報道されており、説明会当日は遺物展示場に黒山の人だかりができた。

近年、当センターでは、現地公開や現地説明会を中心とした一般公開を積極的に行っており、その具体的な成果の一つがのべ3847人という参加者数に表されているものと思われる。(後川恵太郎)



池上曾根遺跡 06-1



私部南遺跡 06-1



池内遺跡 05-2



吹田操車場遺跡 06-1



## <<< 讃良郡条里遺跡出土 近畿最古の弥生土器 >>>

寝屋川市と四條畷市にまたがって位置する讃良郡条里遺跡では、第二京阪道路の設置に伴って大規模な発掘調査が行われてきた。そのうち 03-4 調査区においては、扇状地の末端部に近い沖積低地に位置することから、氾濫堆積物などに被覆された 10 面以上の遺構面が検出され、縄文晩期以降の遺跡の変遷を物語る貴重な成果が得られている（現地での発掘調査は 17 年度に終了）。

弥生前期のものと考えられる遺構面では、住居跡や溝、土坑などが検出され、遺構から出土したものだけでも 200 以上に及ぶ土器が確認された。縄文晩期の突帯文土器を含む弥生前期の土器群は、その後の復元作業などを経て、近畿では稀に見る古相を示すことが判明し、研究者の注目を集めている。

これらの弥生土器は、岡山県を始めとする中部瀬戸内地方の最古段階のものに、形状・文様成形技法などの点で近似する点が認められ、弥生土器の伝播が相当な速度をもって進行し、瀬戸内海を取り巻く伝播経路の東限ともいえる河内湾の最奥部まで達していたことを物語る。

さらに、出土した土器片の中に焼成時の破損痕跡を持つものがあり、土器の伝播には製作技術もしくは技術者の移動が伴っていたことを示唆している。

また、在地の縄文土器文化との関係においても、遺構内での突帯文土器との共伴出土や二重突帯の深鉢を模した弥生甕の出土により、密接な交流を想定することができ、弥生土器の伝播と受容を考える上で重要な資料を提供する。（中尾智行）



突帯文土器を模した弥生土器の甕

## <<< 堺環濠都市遺跡出土 ヨーロッパ製品 >>>

堺市堺区戎之町東 4 丁に所在する戎之町団地の建替えに伴う発掘調査を実施中である。3 月 10 日に現地説明会を開催し、慶長 20（1615）年に大坂夏の陣の大火により焼失した土蔵群などを公開した。昨年 12 月の調査開始より、既にコンテナ 300 箱近くの遺物が出土しているが、中でも注目されるのがオランダ製ワインボトルとイギリス製絵皿である。

オランダ製ワインボトルは緑色のガラス製で、角瓶



イギリス製の絵皿

の注口と丸瓶の底部の破片である。注口には紐状のガラスを巻き付け飾りとしている。また底部の破片は、澱を溜めるために高く上底されている。ともに 18 世紀末～19 世紀初頭の遺構から出土した。

イギリス製の絵皿は、縦長 9.1 cm、横幅 6.0 cm ほどの破片であるが、柳（willow）と楼閣を認めることができる。それらはウィローパターンと呼ばれる絵構図の最も特徴的な部分である。絵の内容は中国の男女の悲話で、それをイギリスで銅版転写技法によって磁器に描いたのが始まりと言われている。19 世紀前半のものである。

これらヨーロッパ製品は、長崎の出島を経由してもたらされたのであろう。大阪府内では、ワインボトルは大坂城下町遺跡（大阪市）に、ウィローパターンの絵皿は麻田藩陣屋跡（豊中市）や大坂城下町遺跡に出土例があるが、堺では初となる。

堺のまちは 15 世紀以降、慶長 20 年の大火までは貿易都市として興隆し、その後は商工業を基盤として繁栄を続けた。今回発見された貿易品はそうした堺の経済力を示している。（三木 弘）

## 弥生文化博物館

## 春の展示ご案内

### 春季特別展『稲作とともに伝わった武器』

平成 19 年 4 月 28 日(土)～7 月 1 日(日)【毎週月曜日休館】

\*但し 4 月 30 日(月・祝) 開館、翌 5 月 1 日(火) 閉館

主 催 大阪府立弥生文化博物館 文化庁 朝日新聞社 朝日放送

後 援 財団法人大阪 21 世紀協会 和泉市 和泉市教育委員会

泉大津市 泉大津市教育委員会

協 賛 株式会社国際交流サービス

入館料 大人 600 円 65 歳以上・高大生 400 円

中学生以下・障害者手帳をお持ちの方無料

電 話 0725 - 46 - 2162

<http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>

### 講演会 対談『武器とまつり』

5 月 13 日(日) 午後 2 時～4 時

水野 正好(財団法人大阪府文化財センター理事長)

金関 恕(大阪府立弥生文化博物館館長)

### 考古学セミナー

いずれも午後 2 時～4 時

#### 第 1 回 『中国・四国地方における弥生時代の戦いについて』

4 月 29 日(日) 講師 松木 武彦(岡山大学)

#### 第 2 回 『逆茂木幻想が語るもの』

5 月 27 日(日) 講師 赤塚 次郎(愛知県埋蔵文化財センター)

#### 第 3 回 『青銅の武器と弥生人』

6 月 3 日(日) 講師 常松 幹雄(福岡市教育委員会)

#### 第 4 回 『鉄器時代ヨーロッパ(前 1 千年紀)における武器と戦争・戦う社会を考える』

6 月 17 日(日) 講師 ネスプルス・ロラン

(大阪大学考古学研究室国費留学生考古学博士課程)

#### 第 5 回 『武器・武装の日常と非日常・近畿弥生社会の変質からみたラフスケッチ』

6 月 24 日(日) 講師 森岡 秀人(芦屋市教育委員会)

## 近つ飛鳥博物館

## 春の展示ご案内

### 春季特別展『河内古代寺院巡礼』

平成 19 年 4 月 21 日(土)～7 月 1 日(日)【毎週月曜日休館】

\*但し 4 月 30 日(月・祝) 開館(翌日 5 月 1 日も開館)

主 催 大阪府立近つ飛鳥博物館、文化庁、産経新聞社、関西テレビ放送

後 援 近畿日本鉄道株式会社

入館料 大人 600 円 65 歳以上・高大生 400 円

中学生以下・障害者手帳をお持ちの方無料

電 話 0721 - 93 - 8321

<http://www.mediajoy.com/chikatsu/>

### 歴史セミナー 午後 2 時～3 時 30 分

5 月 6 日(日)「地域センターとしての古代寺院」吉川真司(京都大学)

6 月 3 日(日)「瓦からみた河内の古代寺院」上田 睦(藤井寺市教育委員会)

6 月 24 日(日)「古代の瓦づくりー秘境の雲南に古代の造瓦技術を求めてー」

大脇 潔(近畿大学)

### 最新発掘調査報告会 6 月 10 日(日) 午後 2 時～4 時

「澁川廃寺の発掘調査成果」坪田真一(財)八尾市文化財調査研究会)

「新堂廃寺の発掘調査成果」中辻 亘(富田林市教育委員会)

「九頭神廃寺の発掘調査」竹原伸仁(枚方市教育委員会)

### 特別講演会 午後 2 時～4 時

4 月 30 日(月・祝)

「古墳の終末と古代寺院の造営」白石太一郎(当館館長)

5 月 20 日(日)

「強烈な薫り放つ古代河内の寺々ー生み出された高僧、文化人たちー」

水野正好(財)大阪府文化財センター理事長)

### 展示解説 午後 2 時～2 時 30 分

4 月 22 日(日)、28 日(土)、

5 月 3 日(木・祝)、4 日(金・祝)、13 日(日)、27 日(日)

6 月 17 日(日)

## 日本民家集落博物館

## 催しご案内(4 月～7 月)

### ◆企画展「春の歳時記」

平成 19 年 4 月 15 日(日)～5 月 20 日(日)

### ◆企画展「夏の歳時記」

平成 19 年 7 月 1 日(日)～22 日(日)

いずれも展示室カルチャアはっとりにて

当館所蔵の民具や大阪府文化財センター保管の遺物の展示を通して、日本の農作業について考えます。特に春から夏の暮らしについて先人の知恵と工夫を紹介します。

### ◆八十八夜お茶セミナー

平成 19 年 5 月 5 日(土・祝)・6 日(日)

11:00～15:00 北河内の茶室にて 定員 30 名 300 円  
日本茶についてのセミナー。新茶の茶摘み時期である「八十八夜」にちなんで催しです。白川茶の新茶とお菓子を、お茶にまつわるお話と共に楽しんでいただきます。

### ◆米蔵茶論「スペイン・コルドバの建物」

平成 19 年 6 月 10 日(日)

15:00～16:00 堂島の米蔵にて

当館館長を囲んで文化財、民家や民具、その他について語り合う小さなサロン。今回は、イスラム文化の影響を残すスペイン・コルドバの建築を紹介します。

### ◆民家模型作り

平成 19 年 7 月 27 日(金)～29 日(日)

10:00～13:00 展示室カルチャアはっとりにて

定員各日とも 20 名(要予約) 材料費 800 円

当館に移築されている越前敦賀の民家の模型を作成します。講師の先生がわかりやすく指導してくれます。

### ◆養蚕体験 7 月上旬～8 月上旬

飛騨白川の民家で蚕を飼育します。